（別紙4）　　令和　2　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3290100589		
法人名	特定非営利活動法人まごころサービス松江センター		
事業所名	グループホームまごころの家・いんべ　ぼたん		
所在地	島根県松江市東忌部町９００－２		
自己評価作成日	令和2年10月19日	評価結果市町村受理日	令和2年12月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	NPＯしまね介護ネット
所在地	島根県松江市白潟本町43番地
訪問調査日	令和２年１１月１９日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

今年度はコロナ関係でほとんどの行事を自粛した。また、家族との面会もままならなかった。ホームの対応としてステイホームを中心に利用者の生活支援を行った。（ホーム周りを使って散歩　ドライブ　外気浴　オープンテラスの食事　敬老会では職員の寸劇　利用者とのカラオケ　カレンダーなどの作品つくり）　面会はラインを使っている家族と利用者をテレビ電話したり、ホーム窓越しに面会を行った。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

管理者、職員は、利用者一人ひとりの喜び・楽しみ・暮らし方などを把握し、利用者本位に生活できるように理念に沿った支援をしている。コロナ禍ではあるが季節ごとの催しでは職員の寸劇を披露したり、蛍の時期にはテラスから見たり、ホール内で竹を使用したそうめん流しや廊下にワイヤーを張り写真展をするなど工夫した暮らしづくりをしている。地域に向け認知症の理解を深める活動をする中で、相談を受けたり地域住民や地元関係者とのつながりが拡がり事業所の理解者が増えている。現在行事や人との交流は自粛しているが、ボランティアから替え歌を手作りのCDや歌集にして届けて貰うなど今できる方法で交流している。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当時スタッフと共に考えた理念を掲げている。また、迷いがあった時などは立ち戻れるように理念を身近に置きミーティングなどで取り入れ常に初心に戻れるように意識付けしている。	事務所やホールに掲示し、職員会議や日々ミーティングで話し合い、ケアをふりかえり、理念に沿った実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	公民館に協力してもらい、自治会に加入し定例会や地域のイベントに参加しているが今年はコロナ感染防止対策のため活動は取りやめている。	現在、地域行事への参加やボランティアの来訪は中止しているが、毎月の「まごころの家・いんべ新聞」を通して利用者の状況や事業所の活動を伝え関係を大事にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度はコロナ感染予防のため自粛した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度はコロナ感染予防のため報告書を行政　地域　社協　家族に提出している。	コロナ感染防止の為、書面で利用者の状況や取り組みを公民館、社協や家族に報告し、情報や意見、助言を受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度も地域で認知症理解についての講演依頼があったがコロナ感染予防のため中止。	日頃から相談をしたり、認知症の講演依頼を受け協力して取り組んでいる。コロナ感染防止用品の供給や助成の情報を得て事業所としての対策をとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロのマニュアルに基づき施設内自施設研修を毎年実施。運営推進会議にて現状の報告。職員会議後身体拘束委員会で毎月見直しを行っている。	担当職員がテーマを決めて事業所内で学んでいる。毎月、身体拘束委員会で柵やセンサーマット利用の見直しを行い、家族に説明し了解を得ている。運営推進会議でも報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様。新年度自施設研修一番先に行い周知している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎年の自施設研修で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時説明に時間をかけている。ホーム利用しながら特養に申し込みし空室待の利用者2名いたが特養側と家族と連携し不安なく転居された。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所が多く都度家族と話す機会があるが今年度はコロナ感染予防のため家族に面会自粛を促した。利用者と家族間　ホーム間はメールやテレビ電話等で現状の報告を行っている。	新聞やテレビ電話やメールで日頃の様子を伝え意見や要望を聞き運営に反映させている。現在面会自粛ではあるが、感染状況に合わせて面会の方法などを伝え家族の協力を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や賞与の時期などに公に話す機会を設けている。また個々には管理者　主任が細やかな声掛けを行い精神的な不安を取り除けるように配慮している。	管理者は日頃から細やかな声がけを行い職員の思いを聞くように努めている。職員会議やミーティングでケアや業務改善などについて話し合い、働きやすい職場づくりをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	同上に述べたように話を聞く機会を多く設けていることによりスタッフ個々の向上心につながってkる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	振り返りシートの活用を管理者を中心とした細やかな声掛け、疑問に思ったことやケアについてなどスタッフミーティングで話し合い解決につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防のため同法人のもつ他ホームとも交流は自粛している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いがなかなか伝えられないのが現状。今までの生活歴を家族から伺うことや何気ない本人の一言から発見に繋げることもある。心地よい暮らしを聞き漏らさずスタッフ間で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族来所時に出来るだけ情報をもらうようにしている。家族を労い何でも気軽に話してもらえるように関係性を作る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	管理者・主任とケアマネで対応している。 個々の相談に応じ、必要ならば包括支援等に相談も進めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が自信を持って役割を発揮できる場面を作るように努めている。また、スタッフは利用者の尊厳を大切にしつつ親しみが感じられるように自然体で接している。例　下の名前で呼んでほしいと希望がある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフは家族へ利用者の様子を月一回ホーム通信という方法で報告し、本人から自宅に電話をしてもらうこともある。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活歴を把握し本人の思いを聞きながら家族とも相談している。友人からの電話もある。こちらからもかけることがある。	住み慣れた地域の人の来訪や友人から電話もかかる。利用者が大切にしてきた場所などを把握し、新聞に記事が載ったら話題にしている。毎月発行している新聞は友人や孫などにも配布している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のその時の状態を把握し一緒に作業やアクティビティーに参加している。個々の観察をしながらその人に合った支援をしている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	挨拶の手紙や毎月の通信を発送することで気軽に相談や来訪してもらえる関係性を大切にしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情から本人の思いや希望を汲み取るように努めている。今年はコロナの関係もあり外出・面会を自粛したが工夫をして利用者の思いを受け止める努力をした。	一人ひとりのできることや好むこと、コミュニケーションの方法などを把握し、日常の何気ない言葉や表情から思いを把握し、全職員で情報を共有して利用者の望む暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書をもとに共有している。ホーム生活で新たな気づきもある。そこから、出来る可能性を見つけ出し新たな支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を穏やかに過ごしていただけるように常に寄り添い心身の安定に努めている。細かの身体情報は朝の申し送り職員会議連絡ノートで共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族と気軽話し合える環境がある。今年はコロナの関係もあり電話・必要文章などで連絡を取り合った。些細なことも聞き洩らさないようにし、現状に活かし計画作成している。	面会自粛の中、家族や関係者と電話や書面で要望を確認し,今までの暮らしが継続できる支援となるよう介護計画を作成している。個人記録に具体的な目標を表示し日々評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子・食事・水分・排泄・入浴・服薬の記録をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診家族付き添いが困難な場合スタッフが対応している。入院時には全スタッフが見舞いに行き食事等慣れたスタッフが対応し早期退院に繋げている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	例年ならば公民館事業に参加するが今年度はコロナの関係で参加なし。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月一回主治医の往診がある。入所以前かかりつけ医も往診に協力あり。	利用者それぞれのかかりつけ医と連携を取り適切な受診や訪問診療ができるよう支援している。家族に受診の結果を報告し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週水曜日の訪問看護にて一週間の様子を伝え指示をもらっている。必要ならば主治医　総合病院の受診に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合には職員が都度見舞いに行き先生や看護師に状態を聞き一月以内の退院を目指している。退院時には家族先生ソーシャルワーカーと連携を取りホームでの対応について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期を迎えられた時ホームでの看取りを希望される場合主治医訪問看護と連携を取り家族にも看取りを理解して頂き最期を迎えられるよう努めている。職員間でも情報を共有し看取りについて取り組んでいる。	重度化に合わせ家族や関係者と話し合いながら事業所ができることを伝え、家族の希望を尊重した支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時職員で判断が出来るように指導している。主治医訪問看護家族管理者に連絡し救急搬送が必要ならば救急車を呼び職員の応援を頼みそれぞれに対応できるようにしている定期的にaed研修をしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の消防訓練火災訓練の対応について研修を行い理解に努めている。地域の方にも災害時の協力を依頼している。	定期的な火災訓練や台風の情報に合わせ川の水位を確認したりガラスにテープを貼るなど、日頃から意識付けし安全に過ごせる対策をしている。地域の防災担当者から建物の構造の把握など協力を得ている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し利用者理解に合わせた声掛け対応をしている。人生の大先輩としての尊敬の念を持ち関わっている。居室内は暖簾などでプライバシーを守っている。	利用者の尊厳を大切にし親しみを感じられるような言葉がけや対応をしている。排泄時は小さな声での言葉がけや、入浴時同性介助をするなど配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思い希望を引き出せるよう声掛け関りを持ちその思いを実現できるように支援している。病気の進行状態で思うように表現が出来ない場合はスタッフが寄り添いながら本人の意向を聞き出せる努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「今日が一番いい日」ホーム理念を大切にし実行している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に　理美容に協力してもらっている。元美容部員だった利用者がおり、他利用者に化粧を施すなどプロの技術を発揮できる場面がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使用し3食を手作りしている。また、利用者にも料理つくりをしてもらう場面を多く作った。片付けも利用者自らスタッフを手伝ってあげたくなる演出をしている。	調理や片付けなど利用者の力を活かし職員と一緒にしている。ピクニックと称して敷地にテーブルをセットしお昼を食べたり、旬の野菜やこだわりの肉を使用し、その日の希望を献立に取り入れるなど柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表に記入している。水分量は毎食時10時15時　夕食後の夜間お茶会等で利用者に合った水分量を設定し支援している。摂取しにくい利用者には多種ゼリーで確実な摂取を心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立の方は見守りながらケアしにくいところは支援している。出来にくい利用者には介助している。全くできない利用者は口腔ティッシュで清潔にし誤嚥にならないように注意している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握して支援している。リハビリパンツの方も布パンツに戻せることもある。	排泄チェック表を参考に一人ひとりの力や排泄パターンに合わせて支援し、パットやオムツの検討をしている。利用者の立位の状況を把握し日中はトイレでの排泄支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを把握している。主治医に相談し服薬　坐薬でコントロールの利用者もいる。食事　飲み物も工夫している。アクティビティー体操を行い全身運動を促し腸の活動を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週二回を目安に本人の希望に沿って同性介助にて支援している。体調不良で入浴出来ない利用者は清拭　下洗浄し清潔保持を行っている。	定期的な入浴や体調に合わせて清拭や足浴などを行い個々に沿った支援をしている。同性介助の希望に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の心身状態に合わせて適時休息をしている。安楽に休んでもらうるように居室の温度調整を行っている。夜間眠れない時は傾聴をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬情報をファイルしスタッフが共有できるようにしてある。利用者の状態を観察し服薬方法など共有している。確実に服薬されたか傍らにつき確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動を中心に個々の生活歴に合わせた支援をしている。アクティビティーを多種取入れ楽しい一日になるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度はコロナ感染予防のため外出は極力自粛している。ホームの周りを散歩することで季節の花などを楽しんでいる。また、ホーム駐車場　庭　等で　テーブル等　出しピクニック気分で昼食会を行った。	現在は人との接触を避け工夫して支援している。おにぎりを持って海や景色を眺めにドライブしたり、敷地内でピクニックの雰囲気作りを行い楽しんでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで家族よりお金を預かり管理している。外出時には欲しいものを自分で購入してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持参している利用者がいる。好きな時にかけている。他利用者には　贈り物が届いたときにお礼の電話や　友人　孫　子供たちに電話は自由にかけられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事飾り付け　利用者の写真　利用者が作った作品を飾り楽しみのある雰囲気つくりをしている。オープンなキッチンにも自由に出入りでいる。調理の手伝い盛り付け味見食器洗い等手伝ってもらう	四季折々の壁画や折り紙の作品を飾ったり、利用者一人ひとりが居心地よく過ごせるようにテーブルの配置の工夫をしている。廊下には写真展のように日頃の写真を飾り歩くきっかけや話題につなげている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じてテーブル等を動かし集団で過ごせる工夫、小ホールで静かに過ごせる個の環境作り行っている。仲の良い利用者同士が居室で談話しているときはお茶を出しゆっくり過ごしてもらう工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者によって差がある。家具の持ち込みはほとんどない。アルバム　衣類　寝具は自宅からだが他のもは入所時の購入されたものがほとんど。家族写真などを居室にかざり安心されるように工夫してる。	利用者、家族と話し合い、携帯電話やテレビ、ラジオを置いている。機織り機でマフラーを作ったり、新聞の購読や好きな歌をCDで聴く人など、習慣や趣味を継続し心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全個所に手すりを付け安全な歩行が出来るように工夫している。トイレや居室にはプレートをつけて分かりやすいようにしている。		